

### 342) 哀愁

君のこと忘れきれずに 夕映えの街を歩けば  
さよならと記されていた あの手紙心を縛る<sup>しば</sup>  
あかねさす夕焼け雲に 過ぎし日の夢は重なり  
黄昏と<sup>たそがれ</sup>と<sup>と</sup>溶け合うように 恋しさが広がってくる

この愛に<sup>いのち</sup>生命を懸けて どこまでも追いかけたなら  
遠ざかる君の<sup>まなざ</sup>眼差し いつの日か振り向くだろうか  
清涼な空気の中で 透明な心になって  
ひとときの夢でいいから もういちど君に逢いたい

華やかな街に暮らして 人混みに疲れたときに  
故郷<sup>ふるさと</sup>を思い出すよに 僕のこと思い起こして  
幸福ならばそれでいいけど 孤独なら手紙をほしい  
君だけが僕の憧れ 君だけが愛だったから

君のこと忘れきれずに 取り出した写真の中で  
おだやかな君の笑顔が 僕を見て<sup>ほほえ</sup>微笑んでいる  
掌の中に残りしものは あのころの君の優しさ  
またひとつ季節はすぎて 今日の日は明日へ旅立つ